

## 飼料用稲(主に青刈り・サイレージ用)の品種選定試験

東 政則・田村紘吉・畠山澄雄 (宮崎県畜産試験場)

Masanori HIGASHI, Koukichi TAMURA and Sumio HATAKEYAMA : Selection of Kinds of Forage Rice (mainly for Soiling and Silage)

水田利用再編対策で土壤条件の悪いところに栽培されることの多い飼料用稲の適品種を選定するため、1979-1983年に14品種を対象に、青刈・ホールクロップ・飼料穀実生産を前提として品種選定試験を行ったので報告する。

### 1. 試験方法

1) 供試品種(育成地) カロローII(米国), プリティッシュ・ホンジュラス(ホンジュラス), アルポリオ(イタリア), RP9-3, RP9-6(以上インド), 密陽23号, 維新, 統一, 水原258, 水原262(以上韓国), ミズホ, 瑞豊(以上宮崎県農業試験場), コシヒカリ(福井県農業試験場), アケノホシ(中国農業試験場)

2) 栽培法 青刈利用前提(第1表):条間30cm,株間30cm,1点5粒点播の直播法,1区12m<sup>2</sup>1反復,1979年試験  
ホールクロップ利用(第3・5・6・7・8表),飼料用穀実生産前提(第2・4表):条間30cm・株間15cm・1株3本移植,1区7.5m<sup>2</sup>2反復,1980-1983年試験

第1表 青刈利用における乾物収量(kg/a)

品 種	4月播	5月播	6月播
カロローII	98.7	80.9	57.2
ホンジュラス	108.3	86.2	66.0
黄金錦	79.9	76.2	62.7
瑞 豊	88.3	58.1	50.9
刈取り回数	2	2	1

注) 1. 1979年試験, 直播栽培

第2表 出穂期

品 種	出穂期
ホンジュラス	7.24
アルポリオ	7.4
維 新	7.20
水 原 258	7.22
コシヒカリ	7.5
瑞 豊	8.10

注) 1. 1980年早期

第4表 粗玄米収量(1980年・普通期)

品 種	登熟歩合	粗玄米重	屑米率
アルポリオ	49.1%	39.2kg/a	5.8%
RP9-3	78.9	56.5	30.0
密陽23号	69.8	59.4	17.8
水原262	80.3	65.8	30.2
ミズホ	73.8	54.6	2.6

第5表 総乾物率(%)

品 種	1982		1983 普通期 (糊熟)
	早期 (乳熟)	普通期 (糊熟)	
RP9-3	38.2		28.9
カロローIII	32.3		
水原258	32.3		36.4
コシヒカリ	25.7		
ミズホ			31.6
瑞 豊	40.7		38.6

第6表 乾物生産量(サイレージ利用, 1983年)

品 種	早 期(糊熟期)			普通期(糊熟期)		
	乾物水量	同日当たり	穂重率	乾物収量	同日当たり	穂重率
	kg/a	kg・a <sup>-1</sup> ・day <sup>-1</sup>	%	kg/a	kg・a <sup>-1</sup> ・day <sup>-1</sup>	%
RP9-3	109.2	0.77	54.5a	108.1a	0.89a	35.9a
水原258	98.7	0.72	52.3ab	104.1a	0.86a	52.8b
コシヒカリ	112.2	0.83	48.2b			
ミズホ				102.6a	0.82a	42.4a
瑞 豊	128.6	0.80	28.9	128.8	1.03	36.2a
アケノホシ	112.7	0.75	50.8ab	107.5a	0.86a	56.7b
F 検 定	3.06n.s.	0.91n.s.	44.39**	6.43**	6.05**	9.35**

### 2. 結果および考察

1) カロローIIとホンジュラスは青刈の収量は高かったがきわめて倒伏しやすく耐病性も劣った(第1・3表)。

2) 外国品種は紋枯病・登熟歩合・屑米率・雑草害などで問題のあるものが多かった(第3・4・7表)。

3) 瑞豊はホールクロップ利用では、多収で極晩生ながら日当たり乾物生産量も劣らず、長稈ながら倒伏も少なく、高乾物率の品種で、また雑草割合が少なく伸長性も良好であった(第2・3・5・6・7表)。

4) 瑞豊の一般成分は水原258。コシヒカリに比べて低蛋白で比較的高いエネルギー値を持つものと思われた。CP:含量低くかつ糊熟期になると著減する。

粗脂肪・粗灰分: 熟期が進むに従い減少する。

ADF・リグニン: 含量低く熟期が進むに従い増加する。

ケイ酸: 熟期にかかわらずほぼ一定である(第8表)。

### 3. まとめ

瑞豊は、ホールクロップ利用で収量性・成分組成ともすぐれていた。一方、外国品種は問題が多かった。

第3表 外国品種の耐倒伏性・耐病性(1981年, ホールクロップ)

品 種	早 期			普 通 期		
	倒伏	全長	病害	倒伏	全長	病害
RP9-3				0	93cm	5
ホンジュラス	4	157	4	5	169	3.5
カロローII	3	119	2	5	100	5
瑞 豊	1	126	1			
コシヒカリ	3	103	1			
ミズホ				0	96	1

注) 1. 倒伏・病害は、0(無)~5(甚)とする観察評価  
2. 病害は、紋枯れ病である。  
3. 早期: 4月移植栽培, 普通期: 6月移植栽培

第7表 雑草抑圧力(1983年, サイレージ利用, 早期)

品 種	雑草率 (生草中)	70日目 草 丈	刈取時 全 長
RP9-3	10.1%	53.9cm	68.6cm
水原258	11.8	52.7	66.3
コシヒカリ	5.9	74.9	113.2
瑞 豊	3.4	76.2	93.9
アケノホシ	8.2	61.6	75.1

第8表 一般成分

(1982年, 早期, サイレージ利用) (乾物当たり%)

品 種	熟期	CP	粗脂肪	粗灰分	ADF	リグニン	ケイ酸
水原258	乳	6.9	1.5	13.7	37.4	8.8	7.4
	黄	5.4	1.9	14.5	35.4	6.0	9.2
コシヒカリ	糊	6.6	1.3	12.4	40.9	9.8	7.6
	糊	6.2	1.7	12.0	37.8	8.3	8.3
	黄	5.7	1.7	12.4	36.3	6.4	10.8
瑞 豊	乳	5.0	1.6	13.4	30.8	4.4	8.3
	糊	3.9	1.5	12.9	32.3	5.3	8.2
	黄	3.7	1.2	12.4	35.4	5.7	8.3